

11月17日（日） ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 28章11節～16節 （新約 270頁）

メッセージ 「ローマに到着したパウロ」

ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて、アピイフォルムとトレス・タベルネまで迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた。  
（使徒言行録 28章15節）

（1）パウロたちはマルタ島の親切な住民たちによって助けられました。雨が降っていたので、住民たちはたき火をたいてパウロたちを寒さから守りました。パウロがたき火の中に薪を入れると、熱気が出てきたマムシがパウロの手に絡みました。しかし、パウロは噛まれずマムシを火の中に振り落としたことから、住民たちはパウロの事を神様だと言いました。また、三ヶ月間の滞在中、パウロはプブリウスの父親や島民たちの病を癒やしました。島民たちはパウロに敬意を表し、島を出る時は必要な物を持ってきてパウロたちに渡しました。

（2）パウロたちはマルタ島から出航し、シチリア島のシリクサで三日間、イタリア半島のレギオンで一日寄港したあと、二日間かけてナポリの近くのプテオリに入港しました。パウロはこのプテオリでキリスト者たちに迎えられ、請われるまま七日間過ごしました。その後、アッピア街道を歩いてローマへと向かいました。その途中、アピイフォルム、トレス・タベルネでローマから迎えに来たキリスト者たちとおちあいました。パウロは神に感謝すると共に大いに励まされました。

ローマに到着したパウロには、監視役の番兵が一人つけられたものの、自分で住む事が許されました。パウロは未決囚でしたが、おそらく重罪に当たるような罪が見いだされなかった上、自らローマでの裁判を希望したからではないでしょうか。こうし

て長く困難なローマへの旅が終わり、パウロのローマでの生活が始まりました。

（3）パウロがローマに行くことと決意したのは、第三次宣教旅行中のエフェソに滞在していた時でした。パウロが滞在している時、エフェソで多くの人たちが信仰に入りました。『このようなことがあった後、パウロは、マケドニア州とアカイア州を通りエルサレムに行こうと決心し、「わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない」と言った。』（19章21節）

また、神がパウロにローマでの使命を与えられたのは、エルサレムでローマ兵によって拘束された日の夜でした。『その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。』（23章11節）

その後、パウロは暗殺者から命を狙われ続ける中、カイサリヤに移送されて長い間拘束されたあと、総督やアグリッパ王の前で弁明し、ローマへの過酷な旅を経てようやくローマに到着しました。決意したのはパウロでしたが、パウロの努力だけでは実現は不可能だったと思います。

パウロを守り、その決意を支え、ローマ到着を実現へと導かれたのは神でした。パウロはそれを痛感していたからこそ、ローマから迎えに来たキリスト者と出会った際、パウロはまず神に感謝の祈りを献げたのでしょう。（多田玲一牧師）